



只見町ブナセンターだより

今年は雪の量が少ないのに加え、5月中ごろから連日のように夏日が続いています。もうそろそろヒメサユリを初めとする初夏の花たちが咲きそうです。

開催中【企画展】 6月13日(月)まで 「春植物の生活史 -つかの間の季節を生きる色とりどりの花たち-」

この春は雪解けが早い上に暖かい日が多く、春植物の季節は駆け足で過ぎていきました。只見町のいたるところでフクジュソウやカタクリの大群落を目にすることができました。春植物の咲き乱れる様子は只見町の代表的な景色の一つでしょう。企画展会期があとわずかとなりましたが、可憐にしてしたたかな春植物の生き方をご覧ください。

ご案内【企画展】 只見町の昆虫展

7月より只見町の昆虫相についての企画展を開催する予定です。ユネスコエコパークに登録された只見町では、その目的である人と自然との共生を実現するため①自然環境、生物多様性の保護・保全、②地域資源を持続可能な形で利活用した地域社会経済の発展、③学術調査研究、人材育成についてのユネスコエコパーク関連事業に取り組んでいます。この中の学術調査研究事業として、只見ブナセンターでは2014年から2年間にわたり只見町の昆虫相についての調査研究を実施してきました。これは、只見地域は広大で奥深い山林を抱えるゆえ昆虫相についてはいまだ未解明部分が多く、それを解明することで今後の昆虫相の保全策に役立てようとするものです。今回の企画展は、この昆虫相調査の研究成果についてみなさまにご報告する企画展となります。この企画展期間中には昆虫に関する自然観察会、ブナセンター講座も行う予定です。詳細な内容については近日お知らせします。



▲2014年に採集されたスズメバチ



▲昆虫調査中の榎原氏(森林総合研究所OB)

===== 活 動 報 告 =====

【ユネスコエコパーク展】3月1日～3月31日

「BR 展 in 奥会津博物館」

南会津町にある奥会津博物館で同館協力のもとユネスコエコパーク展を行いました。ユネスコエコパークのパネル展示と伝承製品の展示販売を行いました。26日には、講演会「只見ユネスコエコパークの未来」を開催しました。只見町と同じ会津地方の方に只見町とユネスコエコパークについて知っていただくいい機会となりました。

【ブナセンター講座】3月13日（日）

「葉と花の戦略と絶滅危惧種の保全」

講師の鷲谷いづみ氏（中央大学・教授、元日本生態学会会長）は、生態学をご専門とし、実践的な保全生態学研究を進めてこられた方です。

生物が生き残り、子孫を残すためにとっての方法を「戦略」と呼びます。本講座では、植物の戦略と保全についてお話しいただきました。植物は、移動できないことから、独自の戦略を持ちます。そのひとつが、葉や枝の配置で、形が決まっている動物と違って、葉や花の数、位置を柔軟に変えることができます。これにより、より光を受けやすい体制をとることができます。また、強すぎる日差しから葉を守るために日中に光合成速度を低下させる昼寝をする、寒い冬は葉を落として安全な場所（地下の球根など）に栄養分を貯蔵する、花や実の形や色で虫や鳥を引きつけるといったことも植物の生き残りをかけた戦略なのです。

そして、植物を保全する際に必要となる考え方として、河川の氾濫・人為的な間伐や採取といった適度な攪乱があることで生物多様性が高まることや、伐採などの攪乱後にどのように植生が回復するかを予測するための要素（残された種子や新しく入ってくる種子の種類）を把握することが大切であること、花粉・種子を運ぶ動物も含めた保全の必要性などをお話しいただきました。植物はクローン個体（ひとつの芽生えから生じた同じ遺伝子を持つ個体）ができやすく、一見すると大規模群落なのに遺伝的には1個体と

いう場合もあり、遺伝子の多様性についても配慮が必要だということです。

参加者からは、植物の生態や保全方法について質問があり、鷲谷氏はそれらの質問に丁寧に回答してくださいました。町内外の42名が参加されましたが、参加者からは、わかりやすかった、面白かった、野菜を育てる参考になったという満足の声が聞かれました。



▲講師の鷲谷氏

【自然観察会】3月12日（土） 「冬の鳥を見よう」

はじめに只見ダムに移動し、カモ類を観察しました。雪解け水の増水で流れの速くなった場所にカワアイサが集まっています。他に、カルガモ、キンクロハジロ、などを見ることができました。ダムができる以前には、カモ類の好む流れのゆるやかな場所が少なかったため、カモ類は多くなかったと考えられます。ダムが出来たことで只見町が大きく変わったことのひとつに、カモ類が増え、ハクチョウが来るようになったことが挙げられます。



▲只見ダム左岸からカモ類を観察する参加者

次に、ダム下流の青少年旅行村に歩いて行きました。旅行村では、かんじきやスノーシューを履いて雪上を歩きながら、森の鳥を探しました。歩き始めてすぐにコゲラが現れ、2羽が幹を突きながらゆっくりと登っていく様子をじっくりと観察することができました。早くも芽を出したフキノトウや雪の下から這い出た青々とした葉のユキツバキやハイヌツゲといった植物も観察しました。雪は湿って重く、歩くのが大変でしたが、いい運動になったという声もありました。参加者は9名と少数でしたが、残り少ない冬をみなで楽しむことができました。

【楢戸集落の方との交流・観察会】4月17日（日） 「ただみ観察の森 楢戸のブナ二次林」

観察の森は只見の自然を身近に体験し、理解するための教育・研修の場です。地元の方々や林野会の協力のもとで、管理・整備されています。今回は楢戸区民の方から申出があり自然観察会を開きました。10名の方に参加いただき、楢戸地区にあるブナの二次林内を散策しました。当日はちょうどカタクリが見ごろで林床に紫色の絨毯のように咲き乱れていました。ブナの葉も芽吹き始め、山も活気付き始めていました。林内にはヒメアオキ・エゾユズリハなどの常緑広葉樹があり、日本海側特有の植生を観察しました。ケアブラチャンの黄色い花も可憐に咲いていました。二次林は人の手によって伐採され



▲説明を受ける参加者

たあとにできる森で、ブナの幹の太さが揃っているのが特徴です。地面には多くのブナの実生が確認できます。ここでは、毎年ブナの実生の調査を行っています。実際に調査している場所を観察しながらブナの実生が発芽からどのくらい生き残るか(生存率)について参加者の方たちに説明しました。林床の植物やかじご焼きの跡を見ながら進み、熊の爪跡がある大きなブナまで行き、樹高や幹周りの測り方などを実演しました。

【自然観察会】4月30日(土) 「春の花観察会」

春の大型連休の自然観察会は、平成24年度から行っており、今年で5回目となります。しかし、今シーズンは異例の雪の少なさで、「春植物」の観察会から「春の花」観察会にタイトルが変更になっていたことにお気づきでしょうか。毎年、開花状況に戦々恐々としますが、今年ほどあきらめに近い気分だったことはありません。

当日は、天気予報ではくもりでしたが、歩きだした頃から雨が降り始めました。入口脇の草地には、わずかにカタクリの花が残っており、雪解け後の一時期だけ姿を見せてすぐに消えてしまう春植物の生活史について、ここでお話ししました。キクザキイチゲも数株、花が残っていました。例年だとお花畑になっているフクジュソウは、すでに実にな



▲林道脇にも雪が全くありません

っていました。それでも、林道脇の斜面や崖をのぞいて春を探しました。エイザンスミレやミヤマキケマン、ヒトリシズカ、キバナイカリソウ、カキドオシ、サギゴケソウの花、ブナの実生などを見ることが出来ました。ひときわ盛り上がったのはラショウモンカズラです。羅生門で切り落とされた鬼女の腕に見立てて名づけられと言われています。町外を中心に32名の方にご参加いただき、いつもとは違った春の風景を楽しみました。

【自然観察会】5月1日(日) 「春のブナ林観察会」

当日はあいにくの悪天候で雨の中、観察会を行いました。今回は47名と参加者が多かったので、只見町公認ガイドのお二人にガイドボランティアとして協力いただきました。観察会は10人ほどのグループに分かれて、新緑の癒しの森内をスタッフが解説しながら歩きました。癒しの森の中には老齢な樹も多く、中でも大きいのは「国界のブナ」(くにざかいのブナ)と呼ばれる直径が1.3m近くあるブナです。残念ながら3年前に倒れ、倒木のところで上を見上げると大きな穴(ギャップ)が見えます。ここではギャップの中でどういった植物が成長していくか(ギャップ更新)について全体で聞きしました。癒しの森には青春広場と呼ばれるブナの二次林があります。そこは細めの幹の木が一斉に生えているので若く爽快な印象を受けます。悪天候のため途中で引き返しましたが、道中、参加者の方から質問があったり、珍しいものがあると立ち止まって解説するなど参加者にとっていろいろな発見のあった観察会になったように思います。



▲^{くにざかい}国界のブナ前にて

【連載：世界のBR (Biosphere Reserves: 生物圏保存地域) No.8】

ユネスコエコパークというのは日本国内の呼び名で、国際的には生物圏保存地域 (Biosphere Reserve: BR) といいます。現在、120 カ国に 669 の BR があります。ここでは、海外の BR をシリーズで紹介します。只見町が BR に指定された翌年の 2015 年には新しく 20 の地域が登録されました。ここでは、2014 年登録地域に引き続き 2015 年に登録されたうち 1 つの BR を紹介します。

The Patagonia Azul (パタゴニア アズール)

アルゼンチンのパタゴニア地域のアズール BR は国の南部にあるチュブ州の沿岸に位置し、310 万ヘクタールの面積を有します。この地域はアルゼンチンの海岸線の中でも最も生物多様性が豊かな地域です。また、様々な鳥類や哺乳類にとって繁殖や採食、そして渡りの際に重要な場所になっています。BR には、世界で最も大きなマゼランペンギンのコロニーがあり、その個体数は地球上のマゼランペンギンの 40% におよびます。この地域は人口密度がとても低く、キャメロンという町があるだけです。この町の住民の 5% 近くの人



はマプチェ族とテウエルチェ族などの先住民族です。ヒツジの飼育に専従する大牧場や農業主がこの地域の主な人間活動を占めており、それに次いで羊毛生産、漁業、観光業、海藻採集となっています。

*この記事は以下のユネスコのホームページに基づいています。このホームページから各 BR の写真を見ることができます。もちろん、只見も載っています！

<http://www.unesco.org/new/en/media-services/multimedia/photos/mab-2014/>

【スタッフ紹介】只見町ブナセンターの新しいスタッフを紹介します。 加藤 健太 (ブナセンター指導員)



加藤健太 (カトケン) と申します。小さい頃から自然が好きで、曾祖母や近所の方について山菜やキノコ採りに行っていました。高校まで只見で育ち、その後しばらく他に出ていましたが、2 年半ほど前に只見町に戻ってきました。趣味は登山・ボルダリング・クラウドウォッチング等々。好きな花はシラネアオイ、好きな雲はレンズ雲です。

【組織】 只見町ブナセンターの 2016 年度の組織をお知らせします

センター長・鈴木和次郎／館長・河原崎里子／指導員・遠藤菜緒子 (学芸専門員)・石川貴大 加藤健太／只見町役場総合政策課兼務 事務局長・渡部勇夫、地域振興係・(新国万寿美)、中野陽介／*名誉館長・河野昭一*

【新刊発行のお知らせ】



只見町ブナセンター紀要 No.5 を発刊しました。

ユネスコエコパーク事業の自然環境基礎調査として、2014年から2年間に渡り昆虫相の調査が行われました。本誌はその報告書で、全ページフルカラーで昆虫を紹介しています。

※ブナセンターで1冊500円で販売します。

【只見町ブナセンター 2016年度の行事予定】

開催期間	行事名
3月12日(土)～6月12日(月)	【企画展】春植物の生活史 -つかの間の季節を生きる色とりどりの花たち-
7月～9月	【企画展】只見町の昆虫展 (自然環境基礎調査の成果報告)
7月	【ブナセンター講座】昆虫に関する講座を行います
7月	【自然観察会】夏のブナ林を歩く
10月～2月	【企画展】只見町の手仕事
10月	【自然観察会】秋のブナ林を歩く
11月	【町外展】「自然首都・只見」展
12月10日(土)	【ブナセンター講座】東南アジアの天然資源を利用したかごやざるのお話を聞きます 講師：竹内やよい氏(国立環境研究所)
2月	【座談会】雪国の手仕事
2月中旬～4月中旬	【ミニ展示】「自然首都・只見」展
2月・3月	【自然観察会】冬のブナ林を歩く

【編集後記】今年は例年よりも2週間程早く252号線六十里越が開通してブナセンターに来館される方が徐々に増え始めました。これから日が長くなり企画展、展示物で使う材料集めに十分な時間動けそうです。皆様の期待に応えられるように頑張りますのでよろしくお願いいたします。

発行 **只見町ブナセンター** 〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地

開館時間：午前9時～午後5時(最終受付は午後4時まで)

休館日：火曜日(祝祭日の場合は翌平日)

入館料：高校生以上300円 小中学生200円 未就学児無料(20人以上は団体割引)

電話 0241(72)8355 ホームページ <http://www.tadami-buna.jp>

FAX 0241(72)8356 電子メール info-buna@amail.plala.or.jp



只見町ブナセンター